

【草花の部屋】

パンジー (スミレ科スミレ属 Viola × wittrockiana)

和名 : パンジー

別名 : サンシキスミレ(三色堇)、ユウチョウカ(遊蝶花)、コチョウソウ(胡蝶草)

英名 : Pansy

キントラノオ目 一年草

原産地 : ヨーロッパ

花言葉 : もの思い、私を思って

花色 : 白、紫、黄、赤、橙、桃、青、黒、2色咲きや3色咲き

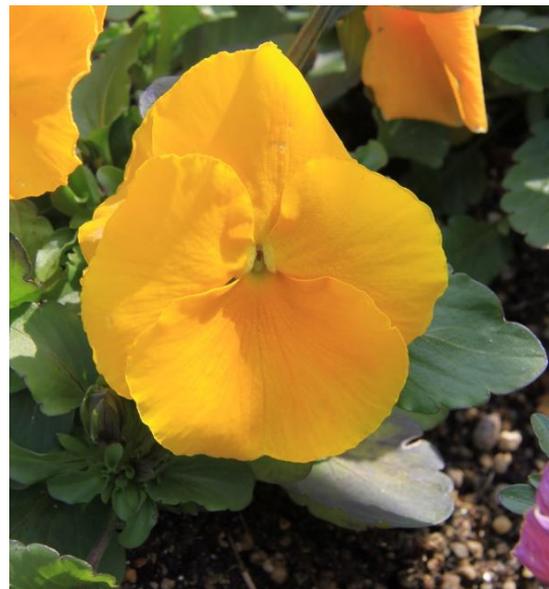


← 写真-1、2 パンジー

撮影日 : 2021年3月7日

撮影場所 : 大和郡山市郊外にて

撮影者 : M さん



← 写真-3 パンジー

撮影日 : 2021年3月7日

撮影場所 : 大和郡山市郊外にて

撮影者 : M さん

→ 写真-4 パンジー

撮影日：2021年3月7日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



大和郡山市郊外の公園で見かけました。

パンジーは晩秋から春にかけて次々に咲き、今では冬を代表する花の一つとされています。スマレもしくはサンシキスマレ(*Viola tricolor*)から分化したものと考えられていて、サンシキスマレの亜種 *Viola tricolor hortensis*

とされることがあるそうです。しかし、園芸上用いられる変種は交雑と交配が進んだもので、学名を *Viola × wittrockiana* となっています。

パンジーは本来、多年草ですが、栽培上は秋植えの一年草として扱われています。日当たりのよい涼しい気候を好み、高温多湿には弱い植物です。茎は直立し、花は葉の付け根から一本ずつ出しています。五枚の花弁(少し重なった2枚の上の花弁と、2枚の脇の花弁、わずかに切れ込みのある下の花弁)と萼片、雌蕊を囲む五本の雄蕊を持っています。葉は卵状楕円形から披針形で、葉の縁は荒い鋸歯状になっています。蒴果は紡錘形で、最初は下を向いていますが、熟すにつれて上を向き、完熟すると3裂するので、その前に採ると丸い褐色の種を採集できます。

毎年、多くの品種が誕生し、現在では多くの色彩が見られるようになり、中には2色の花、単色の花も珍しくないそうです。さらに淡い花色や多色咲きのもの、ブロッチ(花の中央部の黒い部分)が有るものや無いもの、フリルのついたものなど花の形も選べるようになっているそうです。

ヨーロッパの原野に自生していた原種が、主にイギリスで栽培されるようになり、その後、欧州各国で品種改良が盛んに行われ始めたそうです。日本へ渡来したのは江戸時代だそうで、当時は「三色すみれ(黄、紫、白の三色)」と呼ばれ、明治時代に入ると、原種の学名のヴィオラ・トリコロールをそのまま訳した三色すみれという名で親しまれるようになったそうです。

パンジーの名前の由来は、ややうつむきに咲かす花が物思いにふける人を想像させることから、「物思う」というフランス語の「パンセ」からきたと言われています。和名の三色堇(サンシキスマレ)は、花に黄色、紫色、白色が混じっているスマレのこと、遊蝶花(ユウチョウカ)や胡蝶草(コチョウソウ)は花の形が蝶の飛ぶ姿に似ていることに由来しているそうです。

<ちょっと一言>

パンジーと見た目はほとんど同じ花を咲かせる花にビオラがあります。両者の違いは、一般的には花の径で区別されているようです。

- ・パンジー：園芸用に品種改良された花径が5~6cm以上のもの。
- ・ビオラ：花径が4~5cm以下のもので、パンジーより原種に近い。